

2011年6月24日
基礎文化研究専攻 宗教学宗教史学専門分野
博士課程 新里喜宣

東京大学大学院 人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる研究派遣
帰国報告

1. 基本情報

氏名 : 新里 喜宣
身分 : 人文社会系研究科 基礎文化研究専攻 宗教学宗教史学専門分野
博士課程 4年次 (平成 23年度時点)
派遣形態 : 個人派遣

2. 研究課題名

韓国のシャーマニズム、仏教、キリスト教における先祖祭祀と死生観の現代的変容

3. 派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国名 : 大韓民国
都市名 : ソウル
研究機関名 : ソウル大学 人文学部 宗教学科
コンタクトした主な研究者 : 崔鐘成 (ソウル大学 宗教学科 助教授)

(2) 派遣期間

出発日 : 2011年4月11日
帰国日 : 2011年6月24日
総日数 : 75日

4. 主な研究成果

(1) 計画の概要

本調査は、現代韓国のシャーマニズム、仏教、キリスト教における先祖祭祀のあり方を網羅的に調査し、そこに見られる死生観を捉えることを目的とした。火葬の急激な普及を筆頭に、現代韓国においては葬送儀礼や先祖祭祀に目覚ましい変化が見られ、その変化の実態を捉えようとする研究も近年相次いで出されている。しかし、人々の死生観を規定する宗教の現場からその変化の内実を探ろうとする研究には乏しく、本調査は、この点を補おうとするものであった。調査においてはソウル

市内で活動するシャーマン、仏教寺院、そしてキリスト教会が執行する葬送儀礼や先祖祭祀（ないしは追悼礼拝）の現場で参与観察、あるいは宗教者や信者に対する聞き取り調査も行い、彼らの先祖観、死生観を探ることで目的を達成しようとするものであった。

(2) 実際に達成された成果

本調査においては、主に現地のシャーマンであるムーダンへの調査を行った。調査地を選定するに当たっては、韓国シャーマニズムの現代的な様相を把握できるよう、延世大学や梨花女子大学など、一般に新村（シンチョン）と呼ばれる学生街を拠点として活動しているシャーマンと会えるよう調整した。聞き取り調査及び儀礼への参与観察を行えたのは10名のシャーマンに対してであったが、彼らと多く行動を共にすることで、現代シャーマニズムにおける死生についての言説を多く収集することができた。また、ソウルにおけるキリスト教会や仏教寺院にも赴き、宗教者と面談を重ねることで、彼らの思想における死生の問題及び一般信徒が死をどのように捉えているかを重点的に調査した。結果、これまで韓国の死生観を強く規定してきた儒教的先祖祭祀、そしてそこから逸脱する最期を遂げた者はシャーマニズム（巫俗）による儀礼を執行することで「恨」を解かなくてはならないとする死生観のいずれも、現在においてはかなりその影響力を弱めつつあることを確認できた。

(3) 今後の研究展望

今回の調査で得られた資料をもとに、現代韓国における死生観の変化を通史的及び共時的な観点から考察する論文を執筆する予定である。前述した通り、韓国宗教研究においては儒教とシャーマニズム（巫俗）という二重構造モデルが積極的に活用され、研究者の多くはこの理論を以て死生観について考察を重ねてきた。しかし、本調査において確認できた通り、この理論は現在の韓国を捉える上では不十分であると考えられる。そこで報告者は、今回収集できた資料をもとに、現在韓国で起きている変化はいつ頃から起こってきたのか、そして日本本土や沖縄、中国などにもこの変化は見られるのかを探り、既存の韓国宗教研究の枠組みを再考する論文を執筆する予定である。